

2024 年度
事業報告書

学校法人 科学技術学園

2024年度事業報告書

I 法人の概要

学校法人科学技術学園は、昭和38年財団法人日本科学技術振興財団を母体に、広域通信制工業高等学校として企業内学校の生徒に高等学校教育、高等学校卒業資格を付与する教育を行うために設立された。時代の変化のなかで、企業との技能連携教育だけでなく高等専修学校にも技能連携教育を拡大していったが、近年では通学型クラスを始めとした個人生への教育にも力を入れている。

また、1970年代後半には定時制課程を設置し、きめ細かく生徒一人ひとりに合った学習活動並びに教育活動の展開を図ってきた。2025年度からは定時制課程は全日制課程へ移行。さらに2026年度専修学校開校と学園は大きな転換を迎える。

企業内学校・専修学校との技能連携、個人生教育の充実を通し、2024年度末までに多数の卒業生を送り出し、産業界や地域社会の期待に応えてきた。

1. 設置する課程・学科

☆ 通信制課程

機械科

電気科

普通科

☆ 全日制課程

普通科

2. 生徒数の定員、実員、見込及び連携校数（各年度5月1日現在）

通信制課程生徒数

() 内は通学型クラス

	定員	2020 実員	2021 実員	2022 実員	2023 実員	2024 実員	2025 実員
連携生	3,203	2,813	2,747	2,689	2,607	2,557	2,597
個人生	450	420 (110)	519 (113)	517 (110)	610 (127)	722 (169)	842 (193)
合計	3,653	3,233	3,266	3,206	3,217	3,279	3,439

() 内は、通学型クラス

全日制課程生徒数

	定員	2020 実員	2021 実員	2022 実員	2023 実員	2024 実員	2025 実員
1年生	160	188	168	204	173	300	254
2年生	160	196	182	158	190	160	275
3年生	160	143	188	176	145	186	146
合計	480	527	538	538	508	646	675

*2024年度までは定時制課程

2) 技能連携校数

2024年度の技能連携施設及び専修学校等の連携校数は、22校（本校15・名古屋6・大阪1）です。

Ⅱ 2024年度事業報告

(1)はじめに

全日制課程への移行は在校生も含めて完了した。また、取得した第2運動場の整備を進め、部活動が可能な状況となり、野球部、サッカー部を中心に活動を開始している。しかしながら、教育力の向上、魅力ある教育内容の構築に関しては課題として今年度も取り組む必要がある。

神奈川県に開校予定の高等専修学校については、現在、校舎建築に着手している。

(2)校舎の建て替え

今年度も引き続き、校舎改築委員会を中心に活動を継続するが、中長期の支出を考慮しながら改築時期を見定めることとする。

(3)通信制課程

タブレットを使用し、ロイロノートの本格運用を開始した。課題提出、連絡等で有効に活用している。また、授業、講座に関して生徒の積極的な参加がみられた。

コンテンツに関しては、今年度当初の改良には着手できず、引き続き課題として取り組むこととなった。

ミドルリーダーの育成も未着手であり、課題として残っている。

(4)定時制課程

定時制課程から全日制課程へ移行し、本校を選択し入学した生徒の期待に応えるべく、本校独自の基礎学習指導や講座（クリエイティブレッスン）、行事にさらに力を入れた。特にかるた祭（本校文化祭の名称）では、通信制課程の生徒と合同で実施し大いに盛り上げ、本校での新しい教育の形を築いた。

①総合コース

総合コースにおいては、1年生では一人ひとりの目標値を定め基礎的な学習を進めた。特に、個人の学習計画を作成し、本校オリジナルの教材を活用して指導を充実させた。

②特進コース

特進コースにおいては、難関大学の合格を目指したが、十分な結果が得られず、課題が残った。

③ICT分野の強化

両コースにおいて、ICT分野の強化は継続しており、プログラミング授業を中心として専門性の高いICT授業を実施した。また、より専門性の高い講師による講座（クリエイティブレッスン）を開講し多くの生徒が受講した。

さらに、2024年度は「DXハイスクール採択校」に採用され国庫補助のもとに情報Ⅱを中心とした「生成AI」の授業展開を実施した。

特別活動においても、生徒から人気の高いICT・e-Sportsクラブをより活性化させた。その一つとして第2回校内e-Sports大会を自主運営させ大きな教育効果をあげた。

(5)安全対策と健康管理

避難訓練、特殊詐欺に関する警視庁による防犯教室を実施した。

スクールカウンセラーの利用頻度も前年度より増加し、一定の満足度を得ている。傾向として保護者の利用が増えている。

(6)生徒募集

本校の学校説明会は予約制を踏襲して1セットあたりの参加者を少人数としながら、個別相談を充実させた。また、2024年度の入学者数を考慮して年間の開催数を調整したが、多数の来校者数を確保できた。結果として全日制課程、通信制課程ともに定員を上回る入学者数を確保できた。

大阪分室、名古屋分室についても説明会を充実させるとともに、中学校訪問を強化したことで結果として2024年度募集を上回る生徒数を確保できた。